



関東・甲信越

MASARU YAJIMA

谷島 賢

埼玉県 川越市

イーグルバス 代表



1954年、埼玉県生まれ。78年東急観光に入社、81年イーグルバスに転職し2000年に代表就任。05年英国ウェーラーズ大学大学院にてMBA取得。数々の業績が認められ、関東運輸局が選定する「地域公共交通マイスター」に選ばれたほか、第1回日本イノベーター大賞・優秀賞を受賞。赤字に囁く地域の足をデータ活用で再生し、バス業界の革命児として活躍する。

DAISUKE YANASAWA

柳澤大輔

神奈川県 鎌倉市

カヤック 社長



1974年、香港生まれ。慶應義塾大学環境情報学部卒業。98年、学生時代の友人と共に面白法人ヤックを立ち上げる。鎌倉周辺に拠点をおいているIT企業を中心とする鎌倉を盛り上げるためにコミュニティ「カマコソ」の活動をリードし、鎌倉の魂をもつ人たちが集まる運命共同体を盛り上げている。発足以来、肩書や立場を超えて、鎌倉を熱くしていきたい人をITで全力で支え続けている存在。

TORU IWASA

岩佐十良

新潟県 南魚沼市

自遊人 代表



1967年、東京都生まれ。武藏野美術大学在学中に現・自遊人を創業。2000年、雑誌「自遊人」を創刊。04年、新潟県南魚沼に事業の本拠地を移す。14年5月に、ライフスタイル提案型の施設「里山十帖」(新潟・大沢山温泉)をオープン。持続可能な民家保存というコンセプトと斬新な手法が評価され、「グッドデザイン賞」のBEST100に選出、中小企業庁長官賞も受賞した。

FUTOSHI YAMAI

山井 太

新潟県 三条市

スノーピーク 代表



1959年、新潟県生まれ。外資系商社を経て、父が創業した会社、現在のスノーピークに入社。アウトドア用品の開発に着手し、オートキャンプのブランドを築く。96年代表に就任。2017年2月に主に自治体を対象とした地方創生に関するコンサルティング業務を行う100%子会社、スノーピーク地方創生カンパニーを設立。著書に『スノーピーク「好きなことだけ!」を仕事にする経営』。

TOMOYUKI TADA

多田朋孔

新潟県 十日町市

特定非営利法人地域おこし
理事・事務局長

1978年、大阪府生まれ。京都大学文学部卒業後、コンサルティング会社などを経て、新潟県十日町市の池谷集落(当時6世帯13名)に妻子を連れて移住。地域おこし協力隊の3年間の任期終了後も池谷集落に定住し、自分自身でも米、野菜を生産しながら地域おこしの取り組みを継続。2017年4月時点で池谷集落は11世帯24名となったことで限界集落から脱却し、「奇跡の集落」と呼ばれる。



RUMIKO OBATA

尾畠留美子

新潟県 佐渡市

尾畠酒造 専務



1965年、新潟県佐渡市の「真野鶴」蔵元に生まれる。慶應義塾大学法学部卒業後、映画業界で「氷の微笑」「レオン」などの宣伝プロデュースを担当する。95年帰郷。現在、尾畠酒造専務取締役・「真野鶴」5代目蔵元。2014年4月、廃校の小学校で「学校蔵プロジェクト」を開始し、再生エネルギーを導入した酒造りを進めながら「学校蔵の特別授業」などワークショップを開催している。



① 廃校となった小学校を酒造りの場として再生する「学校蔵プロジェクト」。2014年4月にスタート。酒造り、学び、交流、環境の4つがプロジェクトの柱になっている。

JOJI FUNAKI

船木上次

山梨県 北杜市

萌木の村 代表



1949年、山梨県生まれ。1971年清里で初の喫茶店「ロック」を開店。それから7年後、28歳でホテル「ハット・ウォールデン」を開業。清里開拓の父ポール・ラッシュ博士の遺志を受け継ぎ、清里を誇りの持てる場所にするために、野外でのクラシックパレエ公演「清里フィールドパレエ」をはじめ、さまざまな活動を続けるなど、観光活性化に貢献。2003年、国土交通省「観光カリスマ百選」に認定。

KANAKO SATO

佐藤可奈子

新潟県 十日町市

雪の日舎(かなやんファーム) 代表



1987年、香川県生まれ。立教大学法学部に入学。在学中に6軒13人だった新潟県十日町市池谷集落の農業体験に参加。卒業後、同集落に移住・就農、水稻・さつまいもを栽培。2014年には当時全国最年少の女性農業委員に就任。移住女子フリーペーパー「ChuClu」編集長として、地方と女性をつなげる。17年には里山と女性、農業と保育を融合し、ママと子どもを育む事業を開始予定。

TORU OMIYA

大宮 透

長野県 小布施町

小布施まちイノベーションHUB
事務局長

1988年、山形県生まれ。東京大学大学院工学系研究科修了。2013年、長野県小布施町に移住し、法政大学・小布施町地域創造研究所(現・慶應SDM・小布施町ソーシャルデザインセンター)の主任研究員として活躍。行政の政策立案全般に関わりつつ、小布施若者会議やHLAB OBUSEなどの取り組みを行い、人口1万1,000人の町に多様な若者が集う環境づくりを推進している。